



学校教育目標 家庭や湯川地域と連携し「豊かな心とたくましい体をもち、自ら学び自ら考え、よりよい生活を創り出していく子ども」を育てる。

湯川小通信

北九州市立湯川小学校
 発行者 校長 波多江 憲治
 TEL 951-0521

平成28年12月 2日 発行 NO. 12

湯川小の
4つのこだわり

- 自分からあいさつ
- 時間を守る
- 全員でそうじ
- くつ箱の整理

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

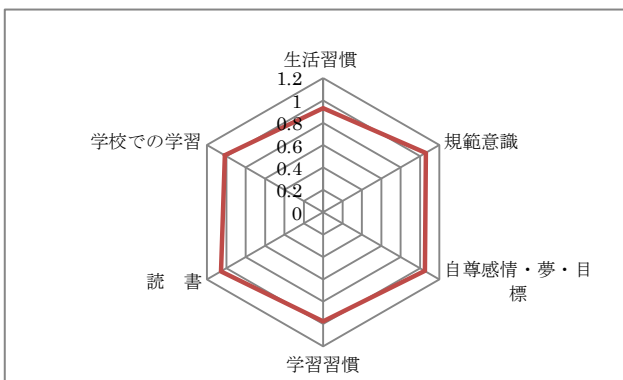
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	話す・聞く能力を問う問題がよくできていた。読む能力を問う問題に課題があり、読書を習慣化する必要がある。	上回っている
国語B	話し手の意図を捉えながら聞き、内容に沿った質問をする力に課題がある。大事なことや分からないことは何かを判断する力が必要である。	下回っている
算数A	計算力については、取組の成果が少しずつでているようである。数量関係を捉える力に課題があり、問題文を図や表等に表して考えることが必要である。	同程度である
算数B	数学的な考え方に課題がある。日頃の授業で、自分の考えを筋道立てて記述・発表することを積み重ねていく必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 学校のきまりを守っている児童の割合が高い。「湯川小4つのこだわり」を全教職員で取り組んでいる成果であると考えます。
- 授業の最後に振り返りの活動をよく行っていたという割合が、全国平均を10ポイント以上高かった。「湯川小学習スタンダード」を全学級で取り組んでいる成果であると考えます。
- 授業で自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが難しい児童の割合が全国平均より高い。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている割合が、昨年度よりも減少し全国平均も下回っていた。
- 自分で計画を立てて勉強している割合が、昨年度に比べ減少した。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることができるようにするために、自分の考えを書いたり児童同士が話し合ったりする時間を授業中に確保するとともに考えの書き方等を示すなどの支援を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の定着と内容の充実に向けて、「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用や自主学習（4年生後半～）の内容を充実させる。児童の良い取組を積極的に紹介し、自主学習の質を高めていく。

○生活習慣の改善に向けて、学級懇談会や学校・学年通信等において、テレビ・ゲームの視聴時間の制限や「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを訴えていく。まずは、児童の意識改革に重点を置き、指導を行う。